

目指す学校像	「たくましく 学びを紡ぐ やなぎの子」「やりぬく子、なかま思いの子、きまりをまもる子、のびる子・のびず子、こころざしをもつ子」の育成
重点目標	1 ICTを活用しながら確かな学力を身に付け、学ぶ楽しさを実感させる事業の実践 2 安全・安心な教育環境を提供できる組織的な体制(予防・緊急対応・事後指導) 3 小中合同の学校運営協議会での地域との方向性の共有と実践 4 教職員一人ひとりがやりがいと居場所が感じられる組織的な職場環境創り

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価		
年度目標			年度評価				実施日令和7年2月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	<現状> ○各教科でタブレットPCやプロジェクターを効果的に活用することで授業も始めの導入を更に工夫し、学習意欲を高める。 ○次年度もスタディサプリで動画視聴時間、確認テスト完了講義、問題回答数、最終ログイン日時を効果的に活用する。 ○タブレットPCを活用したハイブリッド授業が進められている。 ○オンライン授業のおかげで、登校を控えていた児童の学びを止めなかったのはよかった。 <課題> ○ハイブリッド授業の様子を保護者や地域に公開する機会が少なかった。 ○タブレットPCの毎日の持ち帰りは、重量から考えて児童の負担になるので心配である。	・教育DXで実現させる学びの自律と個別最適化  ・ICTを活用して学ぶ楽しさを実感させる授業実践	①個に応じた成績や出席情報、学習履歴を可視化することで「個別学習計画」につなげ個人の学びに何が必要なのか理解させ「個別最適な学び」を目指す。 ②スクールダッシュボードの効果的な活用方法を構築する。	① 令和6年度の学校評価児童アンケートで「勉強をあきらめないで、目標としたところまでやりとげた」で肯定的な回答が昨年度の90%以上となったか。 ② 令和6年度の学校評価児童アンケートで「タブレットPCを活用した学習に進んで取り組んだ」で肯定的な回答が昨年度の94%以上となったか。	① 「学びの指標」や学校評価の「良い授業が実践された」で80%以上の教職員が市平均を上回る。 ② SAの配置について学校評価で肯定的な意見が昨年度81%以上になったか。				
2	<現状> ○令和5年度の傷病者427人(1・2学期)で、昨年度より16件増え4パーセント増加した。児童の運動不足から怪我が多くなっていることを共通理解し、各教科での安全対策(コースロープの修繕、理科や家庭科における火傷に対する注意喚起等)を図った。 <課題> ○感染症予防のための「新しい生活習慣」の緩和の判断を市教委や近隣校の情報をもとに適切に判断する。 ○学校内及び登下校の安全確認を教職員、保護者、地域の情報をもとに総合的に判断する。	・児童一人ひとりの教育的ニーズに基づいた指導・支援が行えたか。  ・安全安心な学校生活を児童が意識しながら活動できたか。	①毎週の3役での打ち合わせや管理職が分担して教室訪問をすることで、偏った見方ではなく総合的に学級の状況を判断する。 ②SAの適切な配置による学級支援体制を構築する。	① 毎学期の「心と生活のアンケート」及び毎月の簡易アンケートの適切な早期の確認、内容によって面談を実施して組織的に児童の心の状態を把握する。 ② 校内委員会(教育相談・生徒指導委員会)での教職員、SC、SSWでの共通理解、組織的な対応	① 保護者アンケートの「子どもは困ったことや心配なことを教職員や保護者等の大人に相談できる」で昨年度87%から90%以上となったか。 ② 学校評価・教職員アンケート「生徒指導・教育相談・特別支援教育は、全教職員の共通理解と協力によって進められている」で肯定的な意見が昨年度の91%以上になったか。				
3	<現状> ○学校運営協議会の立ち上げから6年目となり、片柳中学校と合同の学校運営協議会4年目なる。昨年度から地域の行事に少しずつではあるが児童が参加できている。 ○授業参観や運動会の保護者の人数の制限を緩和し、多くの保護者や地域の方に見ていただいた。 <課題> ○多くの行事で、どこまでコロナ前にもどすかが検討課題である。例えば運動会の半日開催。熱中症の問題、教職員と児童の負担が課題である。	・義務教育学校に向けて小中一貫教育の更なる推進がなされているか。  ・保護者や地域への各行事及びタブレットPCを活用した授業の公開・体験	①小中合同研修会で小中での確認事項(校則やあいさつ運動等)をデータ化して、学校運営協議会での御意見を受け、より良いものを残す。	① 学校運営協議会で小学校の「やなぎっ子の約束」や中学校の「校則」、取り組みの共通理解ができたか。	① 学校評価・保護者アンケート「学校は、施設、設備の安全に配慮している」の項目で肯定的な意見が昨年度の89%以上になったか。 ② 令和5年度の傷病者427人(1・2学期)を100%として令和5年度は下回ったか。				
4	<現状> ○管理職で分担しながらの教室訪問により、学級の実態を適宜把握し、指導困難な状況の場合、SAを多く配置したり、校長室で児童を預かったりした。 <課題> ○教職員によってICTの授業スキルの差がある。 ○教員の時間外在校時間の縮減が十分ではない。	・教職員一人ひとりがやりがいと居場所が感じられる組織的な職場環境創り	①経験の浅い教員を中心に声をかけ、教室訪問後、良かったところを認める。同様に、教室訪問した先生方にも感謝の気持ちをもって、ICTの活用等の良い所を伝える。 ②校長の自己評価を参考に作成した自己評価シートで一人ひとりの目標を確認し、指導、助言をしてやる気を高める。	① 学校評価・教員の「学校目標が正しく理解し、児童の日常生活の指導の中で生かすことができた」で肯定的な意見が昨年度の90%以上になったか。 ② 教職員にビルド アンド スクラップの考えを浸透させ、自分流の働き方改革が1つ以上できたか。					